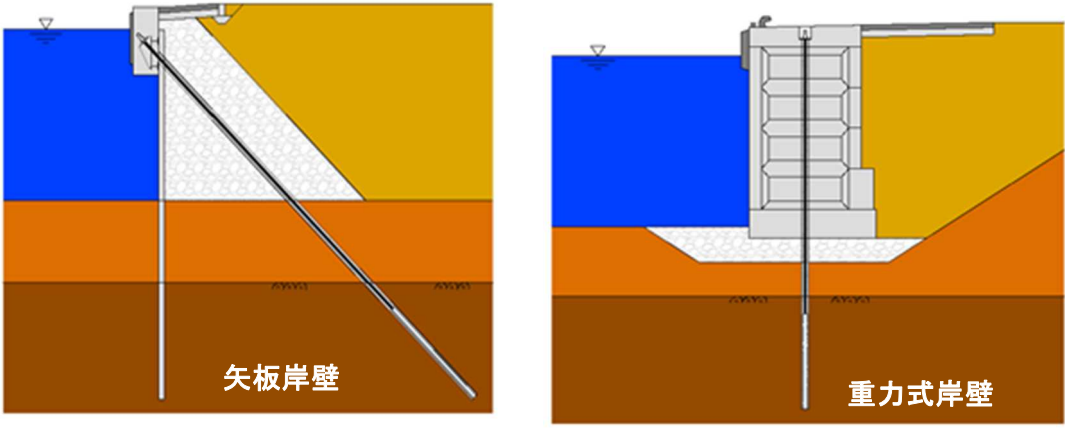


## 令和2年度 評価技術（一般技術）

評価番号	第14-A-001-1号 (第1回更新)	技術の名称	岸壁・護岸補強アンカー工法
技術の種類	一般技術	依頼者	株式会社 エスイー
技術の特徴	<p>岸壁・護岸補強アンカー工法は、地中に造成するアンカー体と構造物とを引張材で連結し構造物にプレストレスを与える工法で、耐震・耐津波補強工法として岸壁・護岸等の補強に用いられる。</p> <p>他の補強方法と比べて施工に必要な面積が小さく、エプロン等に施工範囲が及ばないため既存施設に対する影響を最小限に抑えることができることにより、漁港の施設を供用しながらの補強工事が可能で、条件によっては、工期短縮や工事費縮減などの効果がある。</p> <p>この摩擦圧縮型・ナット定着方式によるグラウンドアンカーは、所定の施工により十分な耐力が保証され、アンカー材全長を防錆油とポリエチレン被覆による二重防食構造とすることにより確実な防食機能を確保しており、腐食環境が厳しい漁港施設の機能強化事業をはじめ、岸壁・護岸等の耐震、耐津波や、耐力が不足する既設構造物の補強目的で採用されている。</p> <p>適用可能な構造形式は、従来より矢板の控え工法としての実績はあったが2002年以降は既存施設の補強工法としての採用事例が増加し、重力式構造を含む岸壁の耐震化、東日本大震災の災害復旧、施設機能強化事業等で2020年までに約100件の漁港施設で採用されている。</p>		
			
評価結果	<p>(1) 重力式岸壁および矢板式岸壁の地震時変位量を抑制する機能を有することが確認された。</p> <p>(2) 重力式岸壁の津波作用時（引き波時）における変位を抑制する機能を有することが確認された。</p> <p>(3) 地震による衝撃荷重や繰返し荷重に対して、アンカー頭部のナット定着構造およびアンカー体の摩擦圧縮型の構造により、機能を維持できることが確認された。</p> <p>(4) アンカー材全長を防錆油とポリエチレン被覆による二重防食構造とすることにより、漁港・沿岸環境において確実な防食機能を確保できることが確認された。</p>		